

【基本情報】

教科	国語	学年	2年	教科書	精選現代文B 東京書籍
科目	現代文B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	新版四訂 新訂総合国語便覧 (第一学習社)
科目概要	国語総合の現代文分野で学習した内容をさらに深く理解し、読解力を定着させることを目的としています。特に評論と小説を中心とした近代以降の様々な文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を深めます。				
到達目標	近代以降の様々な文章を、目的や表現にそって的確に読み取り、論理的に思考することによって、筆者の主張や登場人物の心情などを把握・理解できるようになることが目標です。(センターレベルで70%以上得点できることを目標とします。)				
授業の進め方	教科書を基本としますが、効率性を高めるために、内容に応じて学習プリントも使用します。本文の読解・説明が中心となりますが、指名して発問への解答を求めます。漢字・語彙・文法事項などの習得のため、単元ごとに確認テストを実施します。				
留意事項	教科書、副教材(プリント)、国語辞典を忘れずに準備して下さい。 ※国語辞典は、初出の語句や重要な表現について授業中に全員で調べる事があるので、対応できるよう必ず用意しておいて下さい。 ※プリントは、補助や演習が中心となりますから、ノートは各自が工夫して作成・記録し、大事なことを書き取れるようにして下さい。疑問や意見があれば、積極的に発言するようにしましょう。				
家庭学習	上記の形態で授業を進めますが、予習・家庭学習が必須です。予習・家庭学習の習慣化をはかる意味で、ノート点検を臨時に実施します。予習では、①「本文を音読」し、②ノートに「予習欄」を作成して、③「新出漢字」・「語句」の読み方や意味を「国語辞典」で調べ、④単元毎の「学習の手引き」「表現と言語活動」「漢字と語彙」を解答し、まとめておきましょう。 一日あたり、どれくらいの時間が必要かは各自で異なりますが、自分の家庭学習計画に合わせて「予習→授業→復習」のサイクルを身につけることが、学力向上の早道です。疑問点や不明な点については、その日のうちに教科担任に質問し、家庭でその確認をするといった姿勢で取り組んで下さい。また、日頃から「朝の読書」時間を利用して、多くの文章に触れ、豊かな教養を身につけていきましょう。				
備考	文章を的確に読解し思考を深めていくには、「語彙力」が欠かせません。しかし、授業で扱う教材だけでは「全ての語彙を学習する」ことは不可能です。「朝の読書」時間等を利用して読書に親しみ、小説やエッセイだけではなく社会や科学の分野など、より多くの文章に触れ、語彙を増やし、様々な教養を身につけていきましょう。そのためには、早めに登校するなど、自発的な姿勢が求められます。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A 関心・意欲・態度	国語や言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。	10%	授業や課題に進んで取り組めたか。課題を期限内に提出できたか。
B 話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	10%	目的や課題に応じて収集した様々な情報を分析し、自分の考えを効果的に表現できたか。
C 書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	15%	目的や課題に応じて収集した様々な情報を分析し、自分の表現や推敲に役立てられたか。
D 読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする	15%	文章の構成や展開、要旨を的確に捉えることができたか。
E 知識・理解	表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身に付けている。	50%	語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにできたか。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
評論（１） 小説（１） 評論（２） 前期中間考査	19	世界をつくり替えるために ミロのヴィーナス 山月記 相手依存の自己規定	○			○	○	・文章を読んで、構成、展開、要旨を的確に捉え、その論理性を評価する。 ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心理の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、自分の表現や推敲に役立てる。
評論（２） 詩歌 評論（３） 前期期末考査	20	科学的発見とは 見えない季節 竹 永訣の朝 おじいさんのランプ 書物の近代 読み書きする身体 文章を読み書きするために	○			○	○	・文章を読んで、構成、展開、要旨を的確に捉え、その論理性を評価する。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体の修辞などの表現上の特色を捉える。 ・文章を読んで、構成、展開、要旨を的確に捉え、その論理性を評価する。
評論（３） 小説（４） 評論（４） 後期中間考査	19	消費されるスポーツ ころ 「である」ことと「する」こと				○	○	・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心理の描写などを的確に捉え、表現を味わう。
短歌と俳句 評論（４） 評論（５） 後期期末考査 言語活動編	20	短歌抄 俳句抄 人間の運命と科学 日本人の美意識 論理的文章を読んで意見文を書く 図表から情報を読み取って論じる	○	○		○	○	・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心理の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 ・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・文章を読んで、批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し、自分の考えを効果的に表現する。

【基本情報】

教科	国語	学年	2年	教科書	精選古典B 新版 東京書籍
科目	古典B	単位数 (年間予定コマ数)	3 (117)	副教材	新版五訂 完全マスター古典文法 (第一学習社) 基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版 (桐原書店) 新版四訂 新訂総合国語便覧 (第一学習社)
科目概要	国語総合の古典分野で学習した内容をさらに深く理解し、定着させることを目的としています。そのために、古文・漢文の両分野において、文法事項の体系的な学習を踏まえた読解と反復演習を行います。				
到達目標	古文では、用言および助動詞の総復習と、敬語および助詞の理解を目指します。 漢文では、句法の全般的な理解を目指します。 その上で、古文・漢文とも語彙力を増やすことで文章読解が出来るようになることが目標です。 (センターレベルで70%以上得点できることを目標とします。)				
授業の進め方	教科書を基本としますが、内容に応じてプリントも使用します。 要点を絞った説明が中心となりますが、指名して現代語訳や発問への解答を求めます。 文法事項の習得のため、古文・漢文の両分野において臨時に確認テストを実施します。				
留意事項	教科書、ノート、副教材(プリント含む)を忘れずに準備してください。 古文・漢文ともに予習(「ノート作り」)をして臨んでください。 疑問(たとえば現代語訳の別解など)があれば、その時間内に積極的に質問・発言することが重要です。				
家庭学習	古文や漢文は予習での「ノート作り」が重要です。(成績を左右するほど大切です。) (予習) 古文では、①「本文を3行以上空けてノートに書写」し、②「単語」の品詞と意味を古語辞典で調べ、③「文法事項」を文法書で調べて、④自分の力で「口語訳」しておきます。漢文では、①「本文を3行以上空けてノートに書写」し、②「書き下し文」を書き、③教科書の脚注を参考にしながら、自分の力で「現代語訳」しておきます。 (授業) 授業中の疑問点や不明な点は、その時間の中で教科担任に質問しましょう。 (復習) 家庭で、その時間の学習内容の確認をするといったサイクルで取り組んでください。 一日あたりどれくらいの時間が必要かは各自で異なりますが、自分の家庭学習計画に合わせた「予習→授業→復習」のサイクルの中で、しっかりした「ノート作り(予習)」をすることが、学力向上の早道です。				
備考	センター試験などでは限られた時間内に多くの問題を解くことが求められており、語彙力が欠かせませんが、授業で扱う教材だけで「必要な単語全てを学習すること」は不可能です。そのため、「古文単語」の小テストを継続して実施しますので、毎日目を通すようにして、少しずつで良いので習得を目指すという自発的な姿勢が求められます。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。	10%	授業や課題に進んで取り組めたか。課題を期限内に提出できたか。
B. 話す・聞く能力		%	
C. 書く能力		%	
D. 読む能力	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。	20%	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉えることができたか。
E. 知識・理解	古典の理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身に付けている。	70%	用いられている語句の意味、用法、文の構造などを理解できたか。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
【古文】 説話 1  物語 1 (歌物語)  随筆 1  【漢文】 小話  前期中間考査	27	宇治拾遺物語 小野篁広才のこと 古今著聞集 能は歌詠み  伊勢物語 初冠・渚の院 大和物語 姨捨 枕草子 九月ばかり・中納言参り給ひて・雪のいと高う降りたるを  先従隗始・不死之薬・創業守成	○			○	○	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。  ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。  ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。
【古文】 物語 2  随筆 2  【漢文】 文 1  前期期末考査	27	源氏物語 光源氏の誕生・若紫  方丈記 安元の大火 徒然草 家居のつきづきしく・花は盛りに  漁父辞・春夜宴桃李園序	○			○	○	・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
【古文】 日記 1  【漢文】 史記 1  後期中間考査	27	更級日記 門出 蜻蛉日記 なげきつつひとり寝る夜  項羽 鴻門之会・四面楚歌 劉邦 吾所以有天下者何	○			○	○	・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
【古文】 物語 2 (歴史物語)  随筆 2 【漢文】 漢詩 1  思想 1  後期期末考査	27	大鏡 花山天皇の出家・三船の才  玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ  近体詩  儒家と道家	○			○	○	・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

【基本情報】

教科	地理・歴史	学年	2年 後期～ 3年	教科書	世界史B（実教出版社）
科目	世界史B	単位数 (年間予定コマ数)	6 (236)	副教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
科目概要	1年次で学習した「世界史A」の内容を踏まえつつ、より大きく幅広い視点で世界の歴史の枠組みと展開を、各時代、各地域の重要な事項を中心に学んでいきます。大学受験に対応できる内容で進めていきます。				
到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することにより、歴史的思考力を養います。また、大学入試センター試験において、少なくとも7割以上得点できる力を身につけ、大学入試にも対応できるようにします。				
授業の進め方	<p>①世界の歴史の基本的事項・事柄を中心としながら、世界史Aよりも詳しい事項を補足しながら触れていきます。</p> <p>②授業は講義形式で行いますが、効率的に進めていくために、毎回ワークシートを中心に進めていきます。板書事項は専用のワークシートに記入するようにしてください。</p> <p>③資料を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。また、班活動によるAL（アクティブラーニング）型学習を実施することもあります。ALの活動や教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。</p> <p>④地域ごとの“タテの流れ”、時代ごとの“ヨコのつながり”や“地理的な感覚”を意識して授業を行います。また、出来るだけ毎授業毎にセンター試験形式・私大入試型の問題演習を行います。</p>				
留意事項	<p>① ALの活動や教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。</p> <p>② 配布される「専用ファイル」にワークシートを保存し、ノート代わりに利用すること。 ワークシートは答えの穴埋めだけに終始せず、全体的に捉えて利用すること</p> <p>③ 板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。</p> <p>④ 忘れ物は絶対にしないこと。もし、忘れ物がある場合には、事前に申し出ること。</p> <p>⑤ 提出物の期限はしっかり守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点扱いになる場合があります。</p> <p>⑥ 定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。</p>				
家庭学習	<p>効率よく授業を進めるために、課題が出される場合があります。課題をやってこないとALなどの学習活動に支障がきたす場合がありますので、課題がある場合は、必ず行ってきてください。</p> <p>&lt;「世界史B」を利用して大学受験をする人&gt;</p> <p>①必ず「世界史用語集」を書店で購入してください。授業や参考書などで不明な語句が出てきた場合は用語集を使って調べる習慣をつけてください。</p> <p>②夏休み前には1年次の「世界史A」で学習した内容を含めて、それまで学習した範囲を教科書・ワークシートを使ってひと通り振り返りながら、確認していくこと。その上でしっかりと基本的事項を定着させ模擬試験に対応できるようにすること。</p> <p>③世界史は「暗記がすべて」ではありません。歴史的な流れや前後の関係を理解することで全体が見えてきます。そのためには興味を持って、何事も深く考察ようにし、単なる語句の暗記にとどまらないようにしてください。</p>				
備考	<p>◆学期末・学年末の評定については、上記の4観点を100点法で換算し、総合ポイントの合計で概ね次のように5段階で出します。</p> <p>85ポイント以上＝「5」      70ポイント以上＝「4」      45ポイント以上＝「3」 30ポイント以上＝「2」      30ポイント未満＝「1」</p>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	10%	主にワークシートの作成・提出状況で評価します。 (ワークシートの作成の仕方及び評価の観点は授業の中で説明します。)
B. 思考・判断・表現	世界の歴史を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	5%	「思考・判断・表現」に関わる課題を出します。班ごとに作業し課題を提出してもらいます。 (くわしい評価の観点は授業の中で説明します。)
C. 資料活用能力	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	5%	地図やグラフなどを用いた「資料活用能力」に関わる課題を出します。
D. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	80%	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
・オリエンテーション ・序章 先史の世界	2	人類の進化、農耕・牧畜の開始による文明の形成		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
・第1章 オリエンと地中海世界 1. 古代オリエン世界 2. ギリシア世界 3. ローマ世界	18	オリエン文明の盛衰、イラン人の活動 エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴 都市国家から大帝国内に発展したローマ文明の特徴					
・第2章 アジア・アメリカの古代文明 1. インドの古典文明 2. 東南アジアの諸文明	10	インド文明の成立と発展、南アジア世界の形成過程 南アジア世界の国家形成の過程					
3. 中国の古典文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1. 草原の遊牧民とオアシスの定住民 2. 北方民族の活動と中国の分裂 3. 東アジア文化圏の形成	18	中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向  遊牧民とその国家の動向、オアシス民の活動 北方遊牧民族の動向、中国の分裂と動乱の時代 唐帝国の国家制度や文化、東アジアの国家体制の整備					
第4章 イスラーム世界の形成と発展 1. イスラーム世界の形成 2. イスラーム世界の発展 3. インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4. イスラーム文明の発展	15	イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展 イスラーム帝国の形成 イスラーム世界の拡大過程① イスラーム世界の拡大過程② イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容					
第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1. 西ヨーロッパ世界の成立 2. 東ヨーロッパ世界の成立 3. 西ヨーロッパ中世世界の変容 4. 西ヨーロッパの中世文化	18	ゲルマン人移動後の西ヨーロッパ、封建社会が形成 ビザンツ帝国の繁栄と社会や文化、周辺諸民族の自立の過程 十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向 ヨーロッパ中世文化の特色	○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。	
第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 1. トルコ化とイスラーム化の進展 2. 東アジア諸地域の自立化 3. モンゴルの大帝国	10	内陸アジア世界のトルコ人の活動とイスラーム化の進展 遊牧諸勢力の台頭、東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色 モンゴル帝国の興亡と諸地域への影響					
第7章 アジア諸地域の繁栄 1. 東アジア世界の動向 2. 清代の中国と隣接諸地域 3. トルコ・イラン世界の展開 4. ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	15	清朝の動向、東アジア世界の状況 清朝の支配と社会・文化、東アジア世界の動向 トルコ・イラン世界のイスラーム帝国の動向と社会・文化 ムガル帝国とインド社会・文化の変化、東南アジア交易					
第8章 近世ヨーロッパの形成 1. ヨーロッパ世界の拡大 2. ルネサンス 3. 宗教改革 4. ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	15	ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、ヨーロッパ社会の変革の動き 芸術・思想・科学の変革の内容と意義 宗教改革の理念と拡大、カトリック教会の対応 主権国家体制の特色、ヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向					
第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1. 重商主義と啓蒙専制主義 2. ヨーロッパ諸国の海外進出 3. 17～18世紀のヨーロッパの文化と社会	10	17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向、重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の植民地争奪、大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組み 17～18世紀のヨーロッパ文化の特色と社会状況	○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。	
第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1. 産業革命 2. アメリカ独立革命 3. フランス革命とナポレオン	15	一年次の世界史Aで履修している項目ですので、復習を行います。					
第11章 欧米における近代国民国家の発展 1. ウィーン体制の成立 2. ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3. 南北アメリカの発展	15	一年次の世界史Aで履修している項目ですので、復習を行います					
第12章 アジア諸地域の動揺 1. オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2. 南アジア・東南アジアの植民地化 3. 東アジアの激動	10	オスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向 インドの植民地化と社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程 清朝の動揺と近代化改革、東アジア国際秩序の再編					
第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1. 帝国主義と列強の展開 2. 世界分割と列強対立 3. アジア諸国の改革と民族運動	10	帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競争、従属させられた地域社会の抵抗と変容 欧米諸国の支配下のアジア諸国の改革と民族運動の形成					
第14章 二つの世界大戦 1. 第一次世界大戦とロシア革命 2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3. アジア・アフリカ地域の民族運動 4. 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5. 第二次世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の独立 1. 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2. 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3. 第三世界の台頭と米ソの歩み寄り 4. 石油危機と世界経済の再編 第16章 現在の世界 1. 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2. 途上国の民主化と独裁政権の動揺 3. 地域紛争の激化と深刻化する貧困 4. 現代文明の諸特徴	20		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。	
問題演習・解説	35	大学入試センター試験、難関私大入試に向けての問題演習					

【基本情報】

教科	地歴公民科	学年	2年	教科書	日本史A（山川出版社）
科目	日本史A	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	図説 日本史通覧（帝国書院） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）
科目概要	<p>1 近・現代における我が国の歴史の展開について、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷に関わる総合的な考察について取り上げていく。</p> <p>2 学習を通して歴史的思考力を育成し、我が国の伝統と文化についての認識を深めていくとともに、国際社会の中で生きていく思考力・判断力・理解力を養っていく。</p>				
到達目標	<p>1 近・現代における歴史の流れを理解できる。</p> <p>2 近・現代における日本を取り巻く国際情勢を考察できる。</p> <p>3 近・現代における日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。</p>				
授業の進め方	<p>1 基本的に、教科書、資料集、プリント等を使いながら重要事項の説明及び板書を中心に講義形式の授業を行う。</p> <p>2 質問及び歴史に関わる教材の提供を通して、興味や関心を深めていく。</p> <p>3 アクティブラーニングを念頭においた、グループ形式でのレポートを作成する。</p>				
留意事項	<p>1 授業に必要な教材（教科書、資料集、プリントを綴じるファイル等）は忘れずに毎時間準備する。</p> <p>2 積極的に授業に参加する。</p> <p>3 提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。</p>				
家庭学習	<p>1 教科書を読み進める家庭学習を推奨する。</p> <p>2 参考書、問題集等を復習用として活用していくことを薦める。</p>				
備考					

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・歴史の展開に対する関心と、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。	10%	・授業態度及び授業プリントを丁寧に仕上げているか、随時点検し、評価する。
B. 思考・判断・表現	・グループ内で協力して、思考・判断・表現の能力を駆使して良いレポート作成ができるか。	10%	・レポート作成において、思考・判断・表現に関する観点を設け、評価する。
C. 資料活用の技能	・レポート作成を通して、資料・情報を収集活用し、歴史的事象を追求する方法を身につけられるか。	10%	・レポート作成において、資料を上手に用いて完成できたかを評価する。
D. 知識・理解	・基本的な事柄を、世界史的視野にたつて総合的に理解し、その知識を身につけているか。	70%	・定期考査において、授業で学習した基礎・基本事項の理解度を評価する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編 近代日本の形成と19世紀の社会 第1章 国際関係の変化と幕藩体制の動揺 第2章 明治維新と近代国家の形成 第3章 国際関係の推移と近代産業の成立	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国船の来航と海防策</li> <li>・ 幕藩体制の動揺と幕政・藩政改革</li> <li>・ ペリーの来航と開国</li> <li>・ 幕末の政治情勢</li> <li>・ 明治新政府の成立</li> <li>・ 近代化政策の展開</li> <li>・ 岩倉使節団と国内の政治情勢</li> <li>・ 国際関係と対外政策</li> <li>・ 自由民権運動の展開</li> <li>・ 立憲政治の成立</li> <li>・ 条約改正と東アジアの情勢</li> <li>・ 日清戦争と日露戦争</li> <li>・ 台湾と韓国併合</li> <li>・ 明治の文化</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幕末から明治にかけての歴史の流れを理解できる。</li> <li>・ 幕末から明治にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。</li> <li>・ 幕末から明治期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。</li> </ul>
第2編 近代国家のあゆみと国際関係 第1章 第一次世界大戦と政党政治の展開 第2章 第二次世界大戦をめぐる国際情勢と日本	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政党勢力の伸張と大正政変</li> <li>・ 第一次世界大戦と日本</li> <li>・ ワシントン体制と民族運動</li> <li>・ 政党政治の展開</li> <li>・ 大戦景気と産業構造の変化</li> <li>・ 社会運動の高揚と大衆文化</li> <li>・ 協調外交と昭和恐慌</li> <li>・ 満州事変と五・一五事件</li> <li>・ 日中戦争</li> <li>・ 第二次世界大戦と日本</li> <li>・ 太平洋戦争</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大正から昭和前期にかけての歴史の流れを理解できる。</li> <li>・ 大正から昭和前期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。</li> <li>・ 大正から昭和前期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。</li> </ul>
第3編 第二次世界大戦後の日本と世界 第1章 戦後政治の動向と国際社会 第2章 経済の発展と国民生活 第3章 現代の日本と世界	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 占領と改革</li> <li>・ 日本国憲法の制定</li> <li>・ 労働運動の高揚と占領政策の転換</li> <li>・ 戦後の国民生活と文化</li> <li>・ 戦後の国際情勢と日本の独立</li> <li>・ 国際社会への復帰と日米新安保条約</li> <li>・ 高度経済成長期の日本</li> <li>・ 低成長から経済大国へ</li> <li>・ 冷戦の終結と昭和の終わり</li> <li>・ 55年体制の崩壊と経済の停滞</li> <li>・ 現在の世界と日本</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後の歴史の流れを理解できる。</li> <li>・ 戦後の日本を取り巻く国際情勢を考察できる。</li> <li>・ 戦後から現代までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。</li> </ul>

【基本情報】

教科	地歴公民科	学年	2年 後期～ 3年	教科書	詳説 日本史B (山川出版社)
科目	日本史B	単位数 (年間予定コマ数)	6 (236)	副教材	図説 日本史通覧 (帝国書院) 要点整理ゼミナール日本史 (浜島書店)
科目概要	<p>1 古代・中世・近世における我が国の歴史の展開について、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷に関わる総合的な考察について取り上げていく。</p> <p>2 学習を通して歴史的思考力を育成し、我が国の伝統と文化についての認識を深めていくとともに、国際社会の中で生きていく思考力・判断力・理解力を養っていく。</p>				
到達目標	<p>1 古代・中世・近世における歴史の流れを理解できる。</p> <p>2 古代・中世・近世における日本を取り巻く国際情勢を考察できる。</p> <p>3 古代・中世・近世における日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。</p>				
授業の進め方	<p>1 基本的に、教科書、資料集、プリント等を使いながら重要事項の説明及び板書を中心に講義形式の授業を行う。</p> <p>2 質問及び歴史に関わる教材の提供を通して、興味や関心を深めていく。</p> <p>3 アクティブラーニングを念頭においた、学んだことや考えたことを表現する場を設ける。</p>				
留意事項	<p>1 授業に必要な教材（教科書、資料集、プリントを綴じるファイル等）は忘れずに毎時間準備する。</p> <p>2 積極的に授業に参加する。</p> <p>3 提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。</p>				
家庭学習	<p>1 教科書を読み進める家庭学習を推奨する。</p> <p>2 参考書、問題集等を復習用として活用していくことを薦める。</p>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・歴史の展開に対する関心と、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。	10%	・授業中の発表、ワークシート・資料プリントの活用状況を随時点検し、評価する。
B. 思考・判断・表現	・日本の文化と伝統の特色について認識を深めつつ、国際社会の変化を世界史的視野にたって公正に考察できるか。	15%	・授業態度の観察および定期考査において、思考・判断・表現に関する出題をし、評価する。
C. 資料活用の技能	・資料・情報を収集活用し、歴史的事象を追求する方法を身につけられるか。	15%	・授業で活用した様々な資料の読み取りや解釈について、適切にできているかを定期考査において出題し、評価する。
D. 知識・理解	・基本的な事柄を、世界史的視野にたって総合的に理解し、その知識を身につけているか。	60%	・定期考査において、授業で学習した基礎・基本事項の理解度を評価する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけ ぼの	17	・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳とヤマト政権	○			○	・創生期からヤマト政権成立期までの歴史の流れを理解できる。 ・ヤマト政権成立期までの日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・創生期からヤマト政権成立期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第2章 律令国家の形成	24	・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成	○			○	・朝廷成立期から平安時代初期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・朝廷成立期から平安時代初期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・朝廷成立期から平安時代初期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第3章 貴族政治と国風 文化	20	・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士	○		○	○	・平安時代中期から武士の台頭期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・平安時代中期から武士の台頭期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・平安時代中期から武士の台頭期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立	28	・院政と平氏の台頭 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	○			○	・院政期から鎌倉時代にかけての歴史の流れを理解できる。 ・院政期から鎌倉時代にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・院政期から鎌倉時代までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第5章 武家社会の成長	28	・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	○		○	○	・鎌倉幕府滅亡時から戦国期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・鎌倉幕府滅亡時から戦国期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・鎌倉幕府滅亡時から戦国期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立	18	・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造	○		○	○	・織豊政権から江戸幕府成立期にかけての歴史の流れを理解できる。 ・織豊政権から江戸幕府成立期にかけての日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・織豊政権から江戸幕府成立期までの日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第7章 幕藩体制の展開	15	・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	○		○	○	・江戸幕府安定期の歴史の流れを理解できる。 ・江戸幕府安定期の日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・江戸幕府安定期の日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第8章 幕藩体制の動揺	20	・幕政の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化	○		○	○	・江戸幕府改革期の歴史の流れを理解できる。 ・江戸幕府改革期の日本を取り巻く国際情勢を考察できる。 ・江戸幕府改革期の日本史に関わる地図・資料を読み取ることができる。
第9章 近代国家の成立	6	・開国と幕末の動乱	○			○	・幕末の流れを振り返り、近代以降の確認をする。
センター試験対策  (家庭学習期間)	19						

【基本情報】

教科	地理歴史	学年	2年	教科書	高等学校新地理A（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
科目	地理A	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	新詳地理資料COMPLETE2019（帝国書院）
科目概要	「地理A」は、グローバル化の進展、国際情勢や地球環境の変化などに伴う現代社会が抱える諸課題と、生活圏などの地域にみられる諸課題を地理的に考察する科目です。				
到達目標	現代社会の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景・日常生活との関連をふまえて考察し、地理的認識を養うとともに地理的な見方や考え方を身につける。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境・資源・産業について学習するとともに、さまざまな地図の読図や作図などの作業的・体験的な学習によって地理的技能を身につけます。</li> <li>・授業は講義形式で行いますが、効率的にすすめるために毎回ワークシートを中心に進めていきます。その際、教科書・資料集・地図帳を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。</li> <li>・毎回、必ず教科書・資料集・地図帳・ワークシートを忘れないようにして下さい。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の際に配布されるワークシートをファイルに保存し、ノート代わりに使用すること。ワークシートは答えの穴埋めだけでなく、後から見て分かりやすいように、授業で説明した内容なども空きスペースにメモしておくこと。</li> <li>・板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。</li> <li>・忘れ物はしないこと。忘れ物がある場合には事前に申し出ること。</li> <li>・提出物の期限はしっかりと守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点になる場合があります。</li> <li>・定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。</li> <li>・教師の発問に対する答えや質問など、積極的に授業に参加すること。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは授業を大切に、毎回の授業の中できちんと内容を理解できるように心がけて下さい。その中で理解が不足していたと思われる分野については、教科書を読むなどの家庭学習で補って下さい。また、定期考査に向けてはしっかり学習して臨んで下さい。</li> </ul>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を持っているか。	20%	・ワークシートの作成内容・ノートなど提出状況や授業態度等で評価する。
B. 思考・判断・表現	・現代世界の地理的事象から課題を見だしそれを系統地理的・地誌的に考察することができたか。	30%	・原則的に定期考査の中で「思考・判断・表現」にかかわる問題を を出題する。
C. 資料活用の技能	・地図や統計、画像など地域に関する諸資料から情報を読み取ったり、図表などにまとめたりできたか。	20%	・原則的に定期考査の中で、地図や表・グラフなどを用いた「資料活用能力」にかかわる問題を を出題する。
D. 知識・理解	・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解しているか。	30%	・原則的に定期考査の中で、「知識・理解」に関する問題を を出題する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 1章 地球儀からとらえる現代社会	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球体としての地球、季節と時差、地球儀と主な図法による世界地図、現代の地図を学習する。</li> <li>・国家の3要素・国境、日本と外国との関係、国家間の結びつき・国際組織、日本と外国との間の領有権問題などについて学習する。</li> <li>・資料を用いながら、交通・インターネット・貿易の構造について学習する。</li> <li>・都市観光やエコツーリズム、農村観光、観光を軸とした国際的な人々の移動について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる図法の世界地図の比較学習を通じてさまざまな世界地図を場面に応じて適切に扱える技能を身につける。</li> <li>・国境の意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察できるようにする。</li> <li>・地域間の結びつきやその変化、現代の特質を理解し、航空路線図や写真などの読み取りを通じて地理的スキルを養う。</li> <li>・観光という視点から地域や国家間のつながりを理解し、観光を題材に地理学習への興味・関心を高める。</li> </ul>
2章 人間生活をとりまく環境	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の大地形について、形成・分布の特色・地下資源との関係について世界的な視野から学習する。また、平野の小地形を学習する。</li> <li>・大気の大循環と気候の地域性、世界の気候区分、各気候帯・気候地域の自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習する。</li> <li>・世界の農業・工業の発達と特色、経済活動のグローバル化、民族・言語・宗教について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形・気候環境が人々の生活に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>・経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解できる。</li> </ul>
3章 世界の諸地域の生活・文化	31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東・東南・南アジアの自然環境の特色、各地域の宗教と言語、社会と産業の特色について学習する。</li> <li>・西・中央アジア、北アフリカについて、イスラム教、乾燥気候、石油資源の開発、民族と文化を中心に学習する。</li> <li>・サハラ以南のアフリカについて、自然環境、植民地支配の歴史、産業の特色を学習する。</li> <li>・ヨーロッパ・ロシアの自然環境、生活と文化、言語と宗教、EUと経済の特色について学習する。</li> <li>・アングロ・ラテンアメリカの歴史・自然環境・生活・文化・産業について学習する。</li> <li>・オセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）の生活・文化について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東・東南・南アジアの文化の多様性、環境と生活・産業の関わり、経済発展の要因を理解し、また日本との文化的・経済的な関わりを考察できるようにする。</li> <li>・西・中央アジア、北アフリカの宗教や自然環境、資源開発と人々の暮らしとの関連を理解できる。</li> <li>・サハラ以南のアフリカの経済や民族紛争に歴史的背景があることを理解し、経済発展を始めたアフリカと日本のこれからの関係について考察できるようにする。</li> <li>・ヨーロッパが文化的統一性をもちながらも各地の環境に根ざした多様な生活・文化を有することを理解し、EU統合による各地域の変化を捉えさせ、問題点を考察できるようにする。</li> <li>・アングロ・ラテンアメリカの自然環境や資源、植民地としての歴史などが多様な文化・産業のありように結びつき、地域性をつくりだしていることを理解し、日本の生活・文化との共通点・異質点を考察できるようにする。</li> <li>・オセアニアの自然環境と生活との関連を理解し、同じ海に囲まれた国である日本との違いを考察できるようにする。</li> </ul>
4章 地球的課題と私たち	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸性雨・オゾン破壊・地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化について学習する。</li> <li>・資源・エネルギーの利用・消費・確保と課題について学習する。</li> <li>・人口問題・食料問題について学習する。</li> <li>・人口集中と都市問題の発生、途上国での都市問題、先進国での都市問題について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題は人類が地球的視野で取り組むべき問題であること、また課題には地域性があることに気づくことができる。</li> <li>・資源の偏在性・有限性・消費における地域格差を理解し、持続可能な開発と国際協力の必要性、日本の課題について考察できるようにする。</li> <li>・途上国と先進国では問題が異なることを理解し、人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題等の相互の関連性を理解・考察できるようにする。</li> <li>・人口集中によって生じる諸問題、途上国と先進国間の違いを理解し、解決の方策や課題を考察できるようにする。</li> </ul>

第2部 身近な地域の課題 1章 身近にあるさまざまな地図	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの地図を集め、地図を用いた情報伝達の方法や、地理情報の電子化について学習する。</li> <li>地形図の読図に必要な基礎的知識を学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図の有用性を理解し、地理空間情報を扱う技能を養う。</li> <li>さまざまな地形図の読図の技能を養う。</li> </ul>
2章 日本の自然環境と防災	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の地形・気候などの成り立ちと特徴、土地利用や特徴について学習する。</li> <li>日本の火山災害、豪雨・台風の災害、地震災害、津波・高潮の災害について、事例学習を通じて大観的に学習する。</li> </ul>	◎	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の自然環境や、人間生活と自然災害との関わりについて理解できる。</li> <li>災害の特徴や地域性、防災への取り組み方や課題を理解し、身近な生活圏の防災について考えられるようにする。</li> </ul>
3章 身近な地域の課題と地域調査	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域調査の手順、利用できる統計、聞き取り等の諸調査の方法と着眼点、分析・まとめ・発表の方法を学習する。</li> </ul>	◎	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域調査を通じて、身近な地域の地理的諸課題を見いだせるようにする。</li> </ul>

【基本情報】

教科	地理歴史	学年	2年 後期～ 3年	教科書	新詳地理B（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
科目	地理B	単位数 (年間予定コマ数)	6 (236)	副教材	新詳地理資料COMPLETE2019（帝国書院）
科目概要	「地理B」は、地図の読図や作図などの学習によって身につけた地理的技能や、地球上の各地で生ずるさまざまな事象について、因果関係や地域的特色を分析することで得た知識を活用し、現代社会の諸地域の特色や課題を考察する科目です。				
到達目標	現代社会の地理的事象を系統地理的に考察し、その成果を受けて現代社会の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的な見方や考え方を身につける。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな地図の読図や作図などの作業的・体験的な学習によって地理的技能を身につけるとともに、世界の環境、資源、産業について学習します。</li> <li>・授業は講義形式で行いますが、効率的にすすめるために毎回ワークシートを中心に進めていきます。</li> <li>・板書事項は専用のワークシートを中心に進めていきます。その際、教科書・資料集・地図帳を使って調べてもらったり、白地図を使って作業をしてもらうことがあります。</li> <li>・毎回、必ず教科書・資料集・地図帳・ワークシートを忘れないようにして下さい。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の際に配布されるワークシートをファイルに保存し、ノート代わりに使用すること。ワークシートは答えの穴埋めだけでなく、後から見て分かりやすいように、授業で説明した内容なども空きスペースにメモしておくこと。</li> <li>・板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。</li> <li>・忘れ物はしないこと。忘れ物がある場合には事前に申し出ること。</li> <li>・提出物の期限はしっかりと守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点になる場合があります。</li> <li>・定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。</li> <li>・教師の発問に対する答えや質問など、積極的に授業に参加すること。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは授業を大切に、毎回の授業の中できちんと内容を理解できるように心がけて下さい。その中で理解が不足していたと思われる分野については、教科書を読むなどの家庭学習で補っておいて下さい。また、定期考査に向けてはしっかり学習して臨んで下さい。</li> </ul>				
備考					

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識をもっているか。	20%	・ワークシートの作成内容・提出状況や授業態度等で評価する。
B. 思考・判断・表現	・現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的・地誌的に考察することができたか。	30%	・原則的に定期考査の中で「思考・判断・表現」にかかわる問題を出題する
C. 資料活用の技能	・地図や統計、画像など地域に関する諸資料から情報を読み取ったり、図表などにまとめたりできたか。	20%	・原則的に定期考査の中で、地図や表・グラフなどを用いた「資料活用能力」にかかわる問題を出題する。
D. 知識・理解	・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解しているか。	30%	・原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関する問題を出題する。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第I部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな時代の地図について、その特色を学ぶ。</li> <li>・地球儀の活用や時差について学習する。</li> <li>・地図の種類とそれぞれの特色を学習する。</li> <li>・地形図、都市計画図などの特色を学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代の人々の世界観をとらえることで、現代の地図や身近な地図の有用性に気づくことができる。</li> <li>・平面の地図では球面上の情報を正しく表現できないこと、使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことが理解できる。</li> <li>・現代世界に関する統計を地理情報に加工し、分布図や階級区分図などを作成できる地理的技能を習得する。</li> <li>・地域調査の目的や方法に適した地図を選択する能力を習得する。</li> </ul>
2章 地図の活用と地域調査	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査の手順について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集・整理、現地調査、考察やまとめ・発表などの活動を通して、生活圏の地域的特色をとらえる能力を習得する。</li> </ul>
第II部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模や成因の違うさまざまな地形を取り上げて、その分布や形成要因から基礎的知識や概念について学習する。</li> <li>・地球規模でみた気温・降水量・大気大循環、海洋や水の循環を取り上げて学習する。</li> <li>・世界の気候区分の方法や世界規模から見た植生・土壌の特色について学習する。</li> <li>・日本の自然の特徴と人々の生活について学習する。</li> <li>・地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、森林破壊、大気汚染、異常気象を取り上げて学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形と生活との関連を考察し、地形図の読図に関する地理的技能を習得する。</li> <li>・左記の特色や形成成因を考察・理解できる。</li> <li>・世界の気候帯の分布や形成要因、気候と人々の生活との関連について考察し、基礎的・基本的知識を習得する。</li> <li>・地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解し、防災のあり方についても考察できるようにする。</li> <li>・環境問題を大観しながら自然環境の諸問題に関する分布や形成成因を考察・理解できる。</li> </ul>
2章 資源と産業	70	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界・日本の農業、水産業、林業について学習する。</li> <li>・世界の食料問題について、発展途上国、先進国、日本の事例をもとに学習する。</li> <li>・世界の資源・エネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて学習する。</li> <li>・現代世界の資源・エネルギー問題について学習する。</li> <li>・世界の工業の成り立ち・立地を取り上げ、工業地域の形成と変容について学習する</li> <li>・世界の交通・情報通信・貿易・商業・観光を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の農林水産業の特色の分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。</li> <li>・各国の事例をもとに、世界の食料自給の地域的なかたよりを大観・考察することができる。</li> <li>・世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察できるようにする。</li> <li>・世界の資源をめぐる問題・エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題について大観できるようにする。</li> <li>・グローバル化中での世界と日本の工業に関して、世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察できるようにする。</li> <li>・それぞれの課題に関して、世界的視野に留意して考察することができる。</li> </ul>
3章 人口、村落・都市	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因について学習する。</li> <li>・村落の立地と形態、都市の発達と変容について学習し、村落・都市について基礎的・基本的知識を学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題とも関連させて考察できるようにする。</li> <li>・世界と日本の居住・都市問題の地域性や形成要因について、世界的視野に留意して考察することができる。</li> </ul>
4章 生活文化、民族・宗教	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解する。</li> <li>・世界の言語と宗教の分布について学習する。生活との関わりについて理解する。</li> <li>・民族と国家との関連について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住の地域的差異と世界的な画一化について、地域性との関連をもとに考察することができる。</li> <li>・言語・宗教と生活との関わりについて理解し、宗教と社会との関連を考察することができる。</li> <li>・世界的に見た民族と国家の多様性や、日本の領土問題について考察し、国家群や国連の役割が理解できる。</li> </ul>

<p>第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察</p> <p>1章 現代世界の地域区分</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界が自然、政治、経済、文化などの指標によってさまざまな地域に区分できることを学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な区分から現代世界の特色を理解できるようにする。</li> </ul>
<p>2章 現代世界の諸地域</p>	75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジアの地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流について学習する。</li> <li>・東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題という項目ごとに学習する。</li> <li>・南アジアについて、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を学習する。</li> <li>・西アジア・中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業を学習する。</li> <li>・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域の結びつきを学習する。</li> <li>・ヨーロッパについて、形式的な地域区分にもとづき、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパを学習する。</li> <li>・ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、歴史と社会の変化、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきを学習する。</li> <li>・アングロアメリカの、ゲルマン文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界の中のアメリカ合衆国、アメリカ合衆国とのつながりが深いカナダについて学習する。</li> <li>・ラテンアメリカについて、ローマン文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化を学習する。</li> <li>・オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、アジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物を学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景や文化の特色等とも結びつけて、それぞれの項目ごとに整理し、各地域の特色と地球的課題を考察できるようにする。</li> </ul>
<p>3章 現代世界と日本</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習をもとに、日本の自然、産業構造、人口構成と居住問題、伝統文化保全とグローバル化について学習する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が抱える地理的な課題を発見し、その課題を多面的・多角的に考察できるようにする。</li> </ul>

【基本情報】

教科	地歴公民科	学年	2年	教科書	高等学校 改定版 現代社会（第一学習社）
科目	現代社会	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	新版 最新 現代社会資料集2019（第一学習社） テオリア 最新 倫理資料集（第一学習社） NEW COM. -PASSノート現代社会（とうほう）
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の社会と人間についての理解を深める。</li> <li>2. 人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養う。</li> <li>3. 現代社会の基本的な問題について主体的に考察する基礎を養う。</li> <li>4. 良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</li> </ol>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を探求する。</li> <li>2. 人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身につける。</li> <li>3. 現代社会にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身につける。</li> <li>4. 良識ある公民としての知識を身につけ、様々な課題に対して自分の意見が持てるようになる。</li> </ol>				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期を政治的課題を2単位で学習し、後期は経済的な課題を1単位、倫理的な課題を1単位で学習します。</li> <li>・身近な課題を提供することで、現代社会や人間についての興味や関心を深めていきます。</li> <li>・基本的な要点についての説明を行うとともに、グループや個人での調べ学習もおこないます。</li> <li>・見学旅行前後の平和学習での班による話し合いや、資料を活用した研究により、協同的な学習もおこないます。</li> <li>・平和学習における壁新聞づくりや感想文などにより、学んだことや考えたことを表現する場をつくれます。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に必要な教材（教科書、資料集、ノート、プリント、問題集等）は忘れずに準備すること。</li> <li>・積極的に授業に参加すること。</li> <li>・提出物の期限を守ること。</li> <li>・平和学習では、班員と協力して研究を深めること。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読むという予習を推奨します。</li> <li>・問題集を解くという復習を推奨します。</li> <li>・新聞を読む、ニュースを見るという家庭学習を推奨します。</li> </ul>				
備考					

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に探求心を持ち、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて、参加、協力する態度を身に付けたか。	30%	・ノート、レポート、授業態度、平和学習の様子、提出物等により評価する。
B. 思考・判断・表現	・現代社会の基本問題と人間にかかわる事柄について多面的・多角的に考察し、公正に判断できたか。	20%	・定期試験・レポート等により評価する。
C. 資料活用の技能	・現代社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料から有効な情報を適切に選択し、効果的に活用できたか。	20%	・定期試験、レポート、平和学習の壁新聞等により評価する。
D. 知識・理解	・現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的事項や、学び方を理解し、その知識を身につけたか。	30%	・定期試験により評価する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
(政治分野) 第1編 私たちの生きる社会	14	第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 科学技術の発達と生命倫理 第4章 高度情報社会と私たちの生活	◎	○	◎	○	・現代社会の様々な諸課題に対する関心を高め、それぞれの課題を考察することを通して、幸福、正義、公正など社会の在り方を考察する基盤を身につける。
前期中間考査	1			◎	◎	◎	
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	14	第2章 個人の尊厳と法の支配 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	○	◎	○	◎	・基本的人権・法の支配・民主政治など、民主社会についての基本的な事項を学び、現代社会に生きる人間としての自覚を持つ。
前期期末考査	1			◎	◎	◎	
	6	第4章 国際政治の動向と日本の役割					・国際政治にかかわる基本的な事柄を理解し、国際人としての知識を身につける
(経済分野)	8	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	◎	○	◎	○	・現代の経済政治にかかわる基本的な事柄を理解し、知識を身に付ける。
後期中間考査	1			◎	◎	◎	
	8	第6章 国際経済の動向と日本の役割	○	◎	○	◎	・国際経済のしくみを理解し、国際社会で生きる知識を身につける。
後期期末考査	1			◎	◎	◎	
第3編 とともに生きる社会をめざして	3		◎	◎	○	○	・これまでの学習を基礎に、社会的事象を総合的に考察することができる。
(倫理分野) 第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	8	第1章 現代に生きる青年 第7章 現代に生きる倫理	◎	◎	○	○	・青年期の意義と自己形成の重要性について自ら考える姿勢を身につける。
後期中間考査	1			◎	◎	◎	
	8	第7章 現代に生きる倫理	◎	◎	○	○	・豊かな人生とは何かについて一人ひとりが自分の問題として考察する姿勢を身につける。
後期期末考査	1			◎	◎	◎	
	3	第7章 現代に生きる倫理	◎	◎	○	○	・古今東西の思想家の考えに触れ、自ら考えることの重要性に気づくことができる。
年間祖予定授業コマ数	78						

【基本情報】

教科	数学	学年	2年	教科書	数学Ⅱ Advanced (東京書籍)
科目	数学Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	4 (195)	副教材	Hi-PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍) NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B (東京書籍)
科目概要	<p>・数学Ⅱは、数学Ⅰに続いて履修する科目である。数学のもつ基本的な問題の「図形」についてと「関数」についてを扱う。数学では、式を使って推論を進める。そのために、最初に「方程式・式と証明」について学習し、「図形と方程式」で図形の学習を行う。さらに、三角比を拡張した「三角関数」と「指数関数・対数関数」を学び、関数の変化を統一的な方法で調べるための「微分と積分」を学ぶ。</p> <p>①方程式・式と証明 … 3次式、二項定理、整式の除法、分数式の計算を学び、3次以上の整式から分数式へと計算を発展させる。さらに、2次方程式や高次方程式の扱いから、方程式を解くために、数(実数)の範囲を拡張し、複素数という数を導入する。また、証明の方法について学ぶ。</p> <p>②図形と方程式 … 座標軸(x軸, y軸)をとることで図形(円, 直線等)を方程式として表すことができる。そうすることで、図形の性質を方程式つまり式を計算することで調べることができる。</p> <p>③三角関数 … 数学Ⅰで学んだ三角比を、180度以上の角度まで拡張することで、波のように繰り返す運動を関数として表し、調べることができる。2次関数(整関数)とは全く違う、大変重要で基本的な関数を学ぶ。</p> <p>④指数関数と対数関数… 数学のもう一つの重要な関数である指数関数と対数関数について学ぶ。あるときの量に比例して変化するのが指数関数で、その逆となる関数を対数関数という。</p> <p>⑤微分と積分 … 関数の変化を調べる一般的な方法・技術が「微分と積分」である。理数数学Ⅱ(2年次)では、整関数に限定して、その方法と技術を学ぶことになる。</p>				
到達目標	<p>・方程式・式と証明, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数, 微分と積分の考えについて理解するとともに, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を養い, それらを活用することを目標とする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに, 基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。</p> <p>・教科書の問, 問題, 練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め, 状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・週初めには先週の授業内容の確認のため、「週初めテスト」を実施する。</p> <p>・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート(教科書用と問題集用の2冊を用意する)・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には, 自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は, 家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため, その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し, 傍用問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み, 参考書を利用し疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には, 量が多くなならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合, 各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け, その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるので, じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・数学的な活動を通して, 方程式・式と証明, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数, 微分と積分における考え方に興味をもつと共に, 数学的な見方や考え方の良さを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・数学的な活動を通して, 方程式・式と証明, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数, 微分と積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ, 論理的に考察するとともに, 過程を振り返り多面的・発展的に考える。	30%	
C. 数学的な技能	・数学的活動を通して, 方程式・式と証明, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数, 微分と積分の考えにおいて, 事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ, 的確に問題を解決できる。	30%	
D. 知識・理解	・数学的活動を通して, 方程式・式と証明, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数, 微分と積分の考えにおける基本的な概念, 原理や法則, 用語や記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1章 式と証明 1節 整式の乗法・除法と分数式  2節 2次方程式  3節 高次方程式  4節 式と証明	37	整式の乗法と因数分解 二項定理 整式の除法 分数式とその計算 問題  複素数とその演算 解の公式 解と係数の関係 因数分解 簡単な高次方程式 問題  恒等式 不等式の証明 問題	○   ○   ○   ○   ○	○   ○   ○   ○   ○	○   ○   ○   ○   ○	○   ○   ○   ○   ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>3次式を用いた展開・因数分解の計算ができる。</li> <li>二項定理を理解し、効率よく計算できる。</li> <li>整式の除法の意味とその計算を理解し、計算に習熟する。また、分数式の計算を理解し、習熟する。</li> <li>2次方程式の解としての複素数とその計算を理解し、複素数の範囲で2次方程式を解き、判別式、解と係数との関係について理解、習熟する。</li> <li>剰余の定理や因数定理を理解し利用することで、3次方程式の因数分解による解法に習熟する。</li> <li>恒等式の定義を理解し、恒等式の計算に習熟する。</li> <li>いろいろな等式の証明方法を理解し、恒等式の計算に習熟する。</li> <li>いろいろな不等式の証明方法を理解し、習熟する。</li> </ul>
第2章 図形と方程式 1節 点と直線  2節 円  3節 軌跡と領域	38	2点間の距離 内分点・外分点 直線の方程式 2直線の関係 問題  円の方程式 円と直線 2つの円 問題  軌跡の方程式 不等式の表す領域 連立不等式の表す領域 問題	○   ○   ○   ○	○   ○   ○   ○	○   ○   ○   ○	○   ○   ○   ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>内分点、外分点、距離の定義を理解し、求められる。</li> <li>平面上での直線の方程式を理解し、求められる。</li> <li>2直線が平行、垂直になる場合の条件を理解する。</li> <li>平面上での円の方程式を理解し、求められる。</li> <li>円と直線との共有点、半径と直線までの距離と関係を理解し、円と直線との位置関係に習熟する。</li> <li>条件を満たす点の軌跡の方程式を理解し、求められる。</li> <li>不等式の表す領域を理解し、不等式と図示の関係に習熟する。</li> </ul>
第3章 三角関数 1節 三角関数  2節 加法定理	41	一般角 三角関数 三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数の応用 問題  加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成 問題	○   ○   ○	○   ○   ○	○   ○   ○	○   ○   ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>回転で角を表すことで一般角を理解し、弧度法での角の表し方に習熟する。</li> <li>一般角に対する三角関数の定義を理解し、その相互関係、グラフについて習熟する。</li> <li>三角関数の変化を理解し、三角方程式、三角不等式の解法に習熟する。</li> <li>加法定理を理解し、加法定理から2倍角、半角の公式を導き、公式を用いることに習熟する。</li> <li>三角関数の合成を加法定理との関係から理解し、計算方法に習熟する。</li> </ul>
第4章 指数・対数関数 1節 指数関数  2節 対数関数	38	指数法則 累乗根 指数の拡張 指数関数とそのグラフ 問題  対数とその性質 対数関数とそのグラフ 常用対数 問題	○   ○   ○	○   ○   ○	○   ○   ○	○   ○   ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>指数が整数、有理数、実数に拡張されることを理解し、計算方法としての指数法則に習熟する。</li> <li>実数を定義域としての指数関数を理解し、方程式、不等式に習熟する。</li> <li>指数の逆関数としての対数関数を理解し、計算規則に習熟する。</li> <li>対数関数の特徴を理解し、対数方程式、対数不等式に習熟する。</li> <li>常用対数を利用して、実際に対数を応用する。</li> </ul>
第5章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 2節 導関数の応用  3節 積分	41	微分係数 導関数 接線 関数の増減と極大・極小 関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 問題  不定積分 定積分 定積分と面積 問題	○   ○   ○	○   ○   ○	○   ○   ○	○   ○   ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分係数や導関数の定義を理解し、計算に習熟する。</li> <li>微分係数が、関数の接線の傾きとして変化率であることを理解し、導関数と元の関数の関係を理解し、増減表を書くことに習熟する。</li> <li>増減表と関数の変化を理解し、方程式・不等式への応用に習熟する。</li> <li>微分の逆演算として不定積分を理解し、計算に習熟する。また、不定積分と定積分の関係を理解し、定積分の計算に習熟する。</li> <li>定積分と面積の関係を理解し、いろいろな面積を求めることに習熟する。</li> </ul>

【基本情報】

教科	数学	学年	2年	教科書	数学B Advanced (東京書籍)
科目	数学B	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	Hi-PRIME 数学II+B (東京書籍) NEW ACTION LEGEND 数学II+B (東京書籍)
科目概要	<p>・数学Bは、数学Aに続いて履修する科目である。関数についての流れとして「数列」を学び、図形についての流れとして「ベクトル」を学ぶ。</p> <p>①ベクトル…ベクトルとは、風力や風速を表すときに使う矢印といえる。単純にいうと矢印の計算を定義してその風速や風力を計算しようというものである。従ってここでは数の計算ではなくて、矢印(ベクトル)という新しい数の計算とその体系を学ぶことになる。そのベクトルの体系を、ここでは図形の性質を調べるために利用し、特に空間図形に応用することで、その力を発揮させる。</p> <p>②数列…ある規則性を持った数(量)の列を数列という。その規則性を式で表したり、その表した式を使って積などの新たな量の値を計算することが目的である。差や比が等しい基本的な数列からはじめ、より複雑な関係で表される数列へ、いろいろな数列について学び、それを通し一般的な数列の扱い方の基本を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>・数列およびベクトルの考えについて理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できるようにする。</p> <p>・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・週初めには先週の授業内容の確認のため、「週初めテスト」を実施する。</p> <p>・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート(教科書用と問題集用の2冊を用意する)・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し、傍用問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み、参考書を利用し疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くなならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・数学的な活動を通して、数列およびベクトルの考えにおける考え方に興味をもつと共に、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・数学的な活動を通して、数列およびベクトルの考えにおける数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。	30%	
C. 数学的な技能	・数学的活動を通して、数列およびベクトルの考えにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できる。	30%	
D. 知識・理解	・数学的活動を通して、数列およびベクトルの考えにおける基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	30%	



【基本情報】

教科	数学	学年	2年	教科書	数学Ⅱ Advanced (東京書籍) 数学B Advanced (東京書籍)
科目	SS数学Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	6 (273)	副教材	Hi-PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍) NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B (東京書籍)
科目概要	<p>・SS数学Ⅱは、SS数学Ⅰに続いて履修する科目である。数学のもつ基本的な問題の「図形」についてと「関数」についてを扱う。数学では、式を使って推論を進める。そのために、最初に「方程式・式と証明」について学習し、「図形と方程式」で図形の学習を行う。さらに、三角比を拡張した「三角関数」と「指数関数・対数関数」を学び、関数の変化を統一的方法で調べるための「微分・積分」を学ぶことになる。そして、関数についての流れとして「数列」を学び、図形についての流れとして「ベクトル」を学ぶ。</p> <p>①方程式・式と証明 … 3次式、二項定理、整式の除法、分数式の計算を学び、3次以上の整式から分数式へと計算を発展させる。さらに、2次方程式や高次方程式の扱いから、方程式を解くために、数(実数)の範囲を拡張し、複素数という数を導入する。また、証明の方法について学ぶ。</p> <p>②図形と方程式 … 座標軸(x軸、y軸)をとることで図形(円、直線等)を方程式として表すことができる。そうすることで、図形の性質を方程式つまり式を計算することで調べることができる。</p> <p>③三角関数 … 数学Ⅰで学んだ三角比を、180度以上の角度まで拡張することで、波のように繰り返す運動を関数として表し、調べることができる。2次関数(整関数)とは全く違う、大変重要で基本的な関数を学ぶ。</p> <p>④指数関数と対数関数 … 数学のもう一つの重要な関数である指数関数と対数関数について学ぶ。あるときの量に比例して変化するのが指数関数で、その逆となる関数を対数関数という。</p> <p>⑤微分と積分 … 関数の変化を調べる一般的な方法・技術が「微分と積分」である。理数数学Ⅱ(2年次)では、整関数に限定して、その方法と技術を学ぶことになる。</p> <p>⑥数列 … ある規則性を持った数(量)の列を数列という。その規則性を式で表したり、その表した式を使って積などの新たな量の値を計算することが目的である。差や比が等しい基本的な数列からはじめ、より複雑な関係で表される数列へ、いろいろな数列について学び、それを通し一般的な数列の扱い方の基本を学ぶ。</p> <p>⑦ベクトル … ベクトルとは、風力や風速を表すときに使う矢印といえる。単純にいうと矢印の計算を定義してその風速や風力を計算しようというものである。従ってここでは数の計算ではなくて、矢印(ベクトル)という新しい数の計算とその体系を学ぶことになる。そのベクトルの体系を、ここでは図形の性質を調べるために利用し、特に空間図形に応用することで、その力を発揮させる。</p>				
到達目標	<p>・方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分と積分、数列およびベクトルについて理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、それらを活用することを目標とする。</p> <p>・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。</p> <p>・教科書の問、問題、練習問題を解けるようにする。</p>				
授業の進め方	<p>・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。</p> <p>・単元が終了するときには教科書の練習問題にも取り組む。</p> <p>・教科書の「参考」「発展」も学習する。</p> <p>・週初めには先週の授業内容の確認のため、「週初めテスト」を実施する。</p> <p>・進度によっては単元テスト・節末テストを実施する場合がある。</p>				
留意事項	<p>・教科書・B5版ノート(教科書用と問題集用の2冊を用意する)・傍用問題集を忘れずに準備する。</p> <p>・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に傍用問題集などに取り組む。</p> <p>・参考書は、家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。</p>				
家庭学習	<p>・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し、傍用問題集の該当問題を解く。</p> <p>・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み、参考書を利用し疑問点が残らないようにする。</p> <p>・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。</p> <p>・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組む。</p>				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・数学的な活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルにおける考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	10%	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度(関心・意欲) それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・数学的な活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルの分析における数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ、論理的に考察すると共に、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。	30%	
C. 数学的な技能	・数学的活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルにおける事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論する技能を身に付け、的確に問題を解決できる。	30%	
D. 知識・理解	・数学的活動を通して、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分積分、数列およびベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	30%	



3節 積分法		関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 問題  不定積分 定積分 定積分と面積 問題	○       ○	○       ○	○       ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>増域表と関数の変化を理解し，方程式・不等式への応用に習熟する。</li> <li>微分の逆演算として不定積分を理解し，計算に習熟する。また，不定積分と定積分の関係を理解し，定積分の計算に習熟する。</li> <li>定積分と面積の関係を理解し，いろいろな面積を求めることに習熟する。</li> </ul>
⑥ 数列 1節 数列  2節 漸化式と 数学的帰納法	40	数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 和の記号 $\Sigma$ いろいろな数列の和 問題  漸化式 数学的帰納法 問題	○       ○	○       ○	○       ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列の概念，数列についての基本的な用語の意味や表し方を理解する。</li> <li>等差数列・等比数列の定義を性質を理解し，その一般項や和を求めることに習熟する。</li> <li><math>\Sigma</math>の性質や公式を理解し，一般的な数列の和を求めることに習熟する。</li> <li>階差数列と元の数列の関係を理解し，階差数列から一般項を求めることに習熟する。</li> <li>数列の帰納的定義について理解し，簡単な漸化式を解くことに習熟する。</li> <li>数学的帰納法について，その考え方を理解し，数学的帰納法を用いた証明に習熟する。</li> </ul>
⑦ ベクトル 1節 平面上の ベクトル  2節 ベクトルの応用  3節 空間における ベクトル	37	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの成分 ベクトルの内積 問題  位置ベクトル ベクトル方程式 問題  空間における座標 空間におけるベクトル 位置ベクトルと空間の図形 問題	○       ○	○       ○	○       ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルに関する基本的な用語，記号，計算方法を理解し，計算に習熟する。</li> <li>1次独立である2つのベクトルの1次結合の係数として成分表示の意味を理解し，成分でのベクトル演算に習熟する。</li> <li>位置ベクトルの考え方を理解し，点の位置計算に習熟する。</li> <li>平面上の直線や円のベクトル表示を理解し，ベクトルを用いた図形の処理に習熟する。</li> <li>空間の中での直線・平面の関係を理解する。</li> <li>空間の中での点を座標を用いて表すことを理解し，ベクトルを用いた空間での図形的処理に習熟する。</li> <li>空間ベクトルの内積を定義し，図形の計量に応用することに習熟する。</li> </ul>

【基本情報】

教科	理科	学年	2年	教科書	改訂版 物理基礎（数研出版）
科目	物理基礎	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	物理基礎 フォローアップドリル（数研出版）
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常に起こる物体の運動や様々な物理現象を観察，実験などを通して探究し，その基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付ける。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。</li> <li>・模試においては，偏差値55を目標に学習を進めていく。</li> </ul>				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかる。</li> <li>・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，理科に対する興味や関心を深めていく。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間，教科書・ノート（ノートをプリントで代用する場合は，ファイルも準備すること）・副教材（問題集）を持ってくること。</li> <li>・授業の内容をよく聞き，理解し，教科書・副教材の問題演習に取り組む。</li> <li>・実験には，積極的参加し，班で行う場合は，班員と協力して進めて行く。</li> <li>・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は，事前に申し出ること。</li> <li>・授業中質問をするので，説明をよく聞き，積極的に授業に参加すること。</li> <li>・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は，減点になる場合がある。</li> <li>・小テストは，基本的に理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて行うので，必ず学習してくること。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修した内容について，教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解くこと。</li> </ul>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末・学年末の評価については，下記の4観点を100点法で換算し，5段階で出します。</li> <li>・物理を大学受験科目とする場合は，2年次後期・3年次に選択科目「物理」を履修して下さい。</li> </ul>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち，意欲的に探究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を身につけている。	20%	授業・観察・実験での取り組み状況や発言内容，課題提出状況で判断します。
B. 思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	30%	授業での発言内容や，定期考査の中で，思考・判断・表現に関わる問題を出题します。
C. 観察・実験の技能	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	10%	観察・実験において，基本操作を習得しているかどうかを見きわめ，提出されたレポートの作成・提出状況で評価します。
D. 知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて，基本的な概念や原理・法則を整理し，知識を身につけている。	40%	定期考査の中で，知識・理解に関わる問題を出题します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	13	速度 ●等速直線運動の測定  加速度 落体の運動 ●重力加速度 $g$ の測定	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物理現象について物理量の測定と表し方，分析の手法を理解すること。</li> <li>物体の運動の表し方について，直線運動を中心に理解すること。</li> <li>物体が直線上を運動する場合の加速度を理解すること。</li> </ul>
第2章 運動の法則	20	力とそのはたらき ●フックの法則の検証 力のつりあい  運動の法則 ●運動の法則の検証 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力	○	○	○	○	
前期中間考査	1			○		○	
第3章 仕事と力学的エネルギー	7	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動エネルギーと位置エネルギーについて，仕事と関連付けて理解すること。</li> <li>力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解すること。</li> </ul>
第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	8	熱と熱量 熱と物質の状態 熱と仕事 不可逆変化と熱機関	○			○	
第3編 波 第1章 波の性質	5	波と媒質の運動 波の伝わり方	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の性質について，直線状に伝わる場合を中心に理解すること。</li> <li>気柱の共鳴，弦の振動及び音波の性質を理解すること。</li> </ul>
第2章 音	8	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴 ●気柱共鳴管を用いたおんさの振動数の測定	○			○	
第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗	7	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質によって抵抗率が異なることを理解すること。</li> <li>交流の発生，送電及び利用について，基本的な仕組みを理解すること。</li> </ul>
第2章 交流と電磁波	3	交流 電磁波	○			○	
前期期末考査	1			○		○	
第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用	3	エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類が利用可能な水力，化石燃料，原子力，太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて，物理学的な視点から理解すること。</li> <li>「物理基礎」で学んだ事柄が，日常生活やそれを支えている科学技術と結び付いていることを理解すること。</li> </ul>
第2章 物理学が拓く世界	2	摩擦をコントロールする エネルギーを有効利用する 見えないものを見る	○			○	

【基本情報】

教科	理科	学年	2・3年	教科書	改訂版 物理（数研出版）
科目	物理	単位数 (年間予定コマ数)	5 (234)	副教材	リードα物理基礎・物理（数研出版編集部）
科目概要	1. 平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 2. 水面波・音・光などの波動現象 3. 電気や磁気に関する現象 4. 電子・原子および原子核に関する現象				
到達目標	1. 力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 2. 波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 3. 電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 4. 原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。</li> <li>・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。</li> <li>・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。</li> <li>・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること</li> <li>・実験には，積極的参加し，班で行う場合は，班員と協力して進めて行く。</li> <li>・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は，事前に申し出ること。</li> <li>・授業中質問をするので，説明をよく聞き，積極的に授業に参加すること。</li> <li>・提出物の期限を守ること。</li> <li>・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。</li> </ul>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持っているか。	20%	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート，小テスト，定期考査など，随時観点別項目を設定し評価する。
B. 思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	30%	
C. 観察・実験の技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	10%	
D. 知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	40%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜2年後期＞							
第1編 力と運動		平面運動の速度・加速度	○		○	・平面内を運動する物体の運動について理解できる。	
第1章 平面内の運動	1 5	落体の運動	○		○	・斜方投射された物体の運動を理解できる。	
第2章 剛体	1 5	剛体にはたらく力のつりあい 剛体にはたらく力の合力と重心	○		○	・大きさのある物体のつり合いを理解できる。	
第3章 運動量の保存	1 5	●実験 重心の測定 運動量と力積 運動量保存則	○	○	○	・運動量と力積の関係について理解できる。 ・物体の衝突や分裂における運動量の保存を理解できる。	
後期中間試験							
第4章 円運動と万有引力	1 5	反発係数 等速円運動, 慣性力 単振動 ●実験 単振り子による重力加速度gの測定 万有引力	○	○	○	・衝突におけるはね返りについて理解できる。 ・等速円運動を表す式や物体に働く力などについて理解できる。 ・単振動を表す式や物体に働く力などについて理解できる。	
第2編 熱と気体			○		○	・万有引力の法則および物体の運動について理解できる。	
第1章 気体のエネルギーと状態変化	1 6	気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化	○		○	・気体分子の運動と圧力について理解できる。 ・気体の分子運動と内部エネルギーについて理解できる。 ・熱力学の第一法則について理解できる。	
後期期末試験							
＜3年＞							
第3編 波							
第1章 波の伝わり方	1 2	正弦波, 波の伝わり方	○		○	・正弦波の表し方について理解できる。	
第2章 音の伝わり方	1 2	音の伝わり方, ドップラー効果	○		○	・音のドップラー効果について理解できる。	
第3章 光	1 2	光の性質 ●実験 ガラスの屈折率の測定 レンズ ●実験 凸レンズの焦点距離の測定 光の干渉と回折 ●観察 回折格子による光の干渉	○	○	○	・光の伝わり方について理解すること。 ・ヤングの実験, 回折格子に理解できる。	
第4編 電気と磁気							
第1章 電場	1 2	静電気力, 電場, 電位 ●実験 等電位線の測定 物質と電場, コンデンサー	○	○	○	・クーロンの法則, 電場と電位の関係を理解できる。 ・コンデンサーの性質を理解できる。	
第2章 電流	1 2	オームの法則, 直流回路, 半導体	○		○	・電流回路について理解できる。	
第3章 電流と磁場	1 2	磁場, 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ●実験 クリップモーターの製作 ローレンツ力	○	○	○	・電流がつくる磁界の様子を理解できる。 ・電流と磁場の相互作用について理解できる。	
第4章 電磁誘導と電磁波	1 2	電磁誘導の法則 交流の発生 自己誘導と相互誘導 交流回路, 電磁波	○		○	・電磁誘導について理解できる。 ・電磁波の性質と利用について理解できる。	
第5編 原子							
第1章 電子と光	1 2	電子, 光の粒子性, X線 粒子の波動性	○		○	・電子の発見の歴史について理解できる。 ・粒子性と波動性について理解できる。	
第2章 原子と原子核	1 4	原子の構造とエネルギー準位 原子核, 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子 物理学が築く未来	○		○	・原子の構造とエネルギー準位について理解できる。 ・核反応について理解できる。 ・素粒子の存在について理解できる。 ・科学技術が社会の基盤となっていることを理解できる。	
センター試験対策	1 6	過去問や予想問題の演習	○		○	・センター試験で7割以上の得点を目標にする。	
(家庭学習期間)	3 0						

【基本情報】

教科	理科	学年	2年	教科書	化学 改定版（啓林館 312）
科目	化学	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	改訂版 リードα化学基礎+化学（数研出版） 三訂版 スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、教科書・ノートを持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守る。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してこよう。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	20%	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
B. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	20%	
D. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	30%	

【年間計画】

単元	配当 時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
<2年後期>							
<b>第1部 物質の状態と平衡</b>							
第1章 固体の構造	8	結晶と化学結合	○	○	○	○	・結晶格子の概念、構造を理解できる。 ・物質の沸点、融点を化学結合と関連付けて理解できる。 ・構成粒子の状態とエネルギーの関係について理解できる。 ・気体の体積と圧力、温度との関係を理解できる。 ・気体の体積の変化がわかり、圧力と体積の関係を式にまとめる事ができている。 ・固体と気体の溶解度を求めることができる。 ・濃度と沸点、凝固点の関係やコロイドの性質を理解できる。
第2章 物質の状態と その変化	12	物質の状態変化と粒子の運動 状態変化とエネルギー	○	○	○	○	
第3章 気体の性質	15	気体の体積の変化 気体の状態方程式性質 ●探究活動 ボイル・シャルルの実験	○	○	○	○	
第4章 溶液の性質	15	溶解平衡と溶解度 希薄溶液の性質、コロイド	○	○	○	○	
<b>第2部 物質の変化と平衡</b>							
第1章 化学変化と熱・光 エネルギー	10	反応熱と熱化学方程式 光とエネルギー、ヘスの法則 ●探究活動 ヘスの法則の検証	○	○	○	○	・ヘスの法則を用いて反応熱を求めることができる。 ・化学エネルギーの差と発生や吸収について理解できる。
第2章 化学反応と電気エ ネルギー	18	電気分解 ●探究活動 電気分解 電池	○	○	○	○	・電気分解における電極での反応を電子を用いて考えることができる。 ・酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みを理解できる。